

三宅島ふるさとだより No30

発行日：平成 24 年 3 月 1 日 三宅島ふるさと再生ネットワーク東京事務局 電話 fax 03(3963)5697
住所：〒173-0005 東京都板橋区仲宿 25-6 あすなろ福祉会内（本部） 三宅村神着 320-2 佐藤就之

東京新聞

2012年(平成24年)2月20日(月曜日)

～ご寄付のお願い～

いつも皆様にはたくさんのご協力を
いただいて私たち三宅島ふるさと再生
ネットワークは様々な活動が続けるこ
とができています。ありがとうございます。

この度は、新しい年度を迎えるにあ
たり、勝手ではございますが振込用紙
を同封し、ご寄付のお願いをさせて頂
く事となりました。頂いたご寄付は、
在京者支援や、三宅島の復興・再生、
情報発信などの諸活動でネット一同大
切に使わせて頂きます。

どうぞご協力よろしくお願いいたし
ます。

三宅島ふるさと再生ネットワーク
会長 佐藤 就 之
会計 糸井 真由美

～メッセージ～

先日の新春の集いにご参加くださ
った福島県から避難されている木幡
様ご夫妻（新報第 37 号にて紹介記事
掲載）より、お便りを頂きましたの
で、ご紹介します。

その他にも、新春の集いに参加し
てくださった方々から、三宅島やふ
るさとネットに対する温かいメッセ
ージを頂きました。ありがとうございます。
（2 面にも掲載しています。）



新春の集いであいさつする佐藤会長（品川区で）

福島避難者支えよう

三宅の教訓役立てて

品川 島民の店に招待し激励

火山の噴火で避難し
たまま帰れない三宅島
の住民を支援する「三
宅島ふるさと再生ネッ
トワーク」の新春の集
いが十八日夜、避難後
に島民が始めた品川区
の飲食店であり、原発
事故のため都内にきた
福島県の避難者を招待
して激励した。

都内の避難者や支援
者ら三十人が参加。避
難者が知り合った福島
の二組三人を招待し
た。練馬区の都営住宅
に住む飯館村の木幡二
男さん（妻夫妻は「飯
館村の自宅の庭は草ぼ
うぼう。ジャングルの
ようで悲しい。毎日
もんもんとしており、

晴らしの機会を得られ
て感謝している」と話
した。

佐藤就之会長（右）は
「避難が長期間に及ぶ
と、家屋が傷んで住め
なくなり、集落が崩壊
する。三宅島の長期避
難から学んだことを
発信し、福島やこれか
ら起こる災害の教訓に
しなければ」と訴え
た。

島民は雄山の噴火で

新春の集いにお招きくださいま
してありがとうございました。楽し
い時間を過ごさせていただいたう
え、お土産まで頂戴し恐縮に存じて
おります。自分たちは一人ぼっちで
はないと感じました。今後も先の見
えない避難生活が続きますが夫婦
で力を合わせて進んでいきたいと
思います。（木幡 二男・利知子様）

二〇〇〇年に全島避難
した。〇五年の避難指
示解除後も、高齢者ら
が都内にこもりまっ
てる。（松村裕子）

観光客量 半分に衰退、人口も減

三宅島再生 誰に託す

火山噴火による全島避難が解除され7年がたつ三宅島(三宅村)で十二日、解除から二度目の村長選が投票された。特例措置で全地区に居住は可能だが人口は減少、産業は衰退したまま。家の補修ができず、帰りたいくても帰れない現状もある。島民は、選ばれるリーダーに、復興、島の再生を託す。

(松村裕子)

三宅島では、二〇〇〇代も多く、高齢化に拍車になり、その後、雄山が噴火。九月からの全島避難は〇五年二月まで四年半に及んだ。二月一日現在の島の人口は二千七百七十六人で、避難前より約千人少ない。

六十歳以上の割合を示す島の高齢化率は36・3%で、噴火前より約7%もアップした。三校ずつあった小中学校は各一校に統合され、児童生徒は三分の一に。火山ガスの子どもへの影響を危惧して帰島しない子育て世

現新3氏争う

継続を求めている。

農林水産業の衰退が著しい。主要作物の観葉植物は火山ガスに強い品種に切り替えたが、農家は三分の一に減少。漁獲量は噴火前の半分以下、名産のテングサの生産量は三分の一に減った。

「島で畑仕事をしていたら長生きできた

戦いを展開している。

高齢者も 帰れない例も

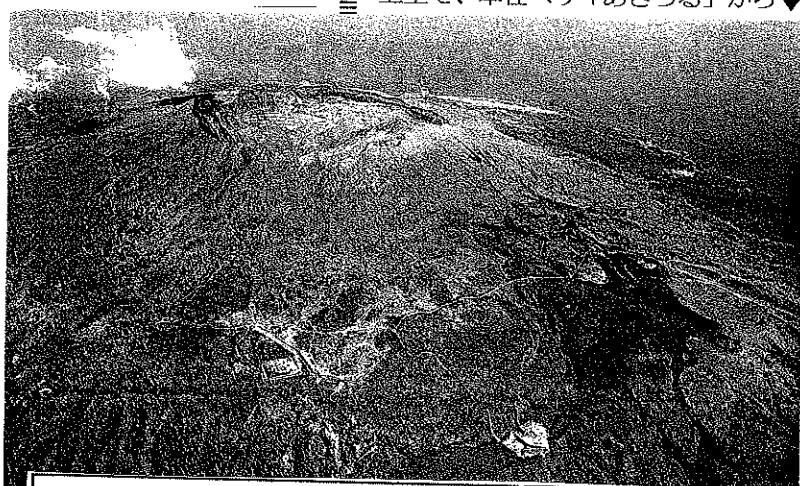
六十五歳以上の割合を示す島の高齢化率は36・3%で、噴火前より約7%もアップした。三校ずつあった小中学校は各一校に統合され、児童生徒は三分の一に。火山ガスの子どもへの影響を危惧して帰島しない子育て世

は都や航空会社に羽田便

全島避難解除から7年 村長選あす投票

三宅島でできない島民の支援を続ける「島ふるさと再生ネットワーク」の佐藤就之会長(左)は、長期避難で住宅が傷み、建て替え、補修費が島のネックと指摘、「年金生活の高齢者には負担できず、島に帰りたいくても戻

村長選挙が行われている三宅島。帰りたいくても帰れない島民も三宅島上空で、本社ヘリ「あさづる」から



昨年の夏に岩手県での活動に参加し、ふるさとを失う事の苦しさ、悲しみを強く感じました。自分には精一杯協力していきたいです。自然豊かで笑顔あふれる三宅島の更なる復興を心より願っています。(参加者・長嶋様(24才))

東日本大震災で東京にいた私は身をもって恐怖を感じ、人事ではないと痛感しました。実際に三宅島島民の方や、地元の方のお話を聞き、胸にこみあげる気持ちもありました。心より復興を祈っています。(参加者・小島様(24才))

この会に参加して、「まだまだ知らないことばかりなので、様々なことを学びたい」と感じました。復興が少しでも早く進み、以前のよう素敵な緑あふれる三宅島に戻ることを願っています。

(参加者・吉川様(22才))

あろう高齢者が、避難先で引きこもって亡くなっている。島に戻っても、隣近所がおらず、孤独死が発生している」

村長選では、ともに無所属新人の元教育長松田昭正氏(右)と元議長佐久間達己氏(左)、三選を目指す無所属現職の平野祐康氏(中)が三つどもえの戦いを展開している。